



ウイスキーの聖地を巡って

会員 金川 征司 (60 期)

昨年の緊急事態宣言の発令から、海外に行くことが難しい状況が続いていますが、いつか海外に行ける生活が戻ってくることを願いつつ、ウイスキーの聖地と言われるアイラ島の紹介をさせていただきます。

ウイスキーは、大きく分けると、スコッチウイスキー、アイリッシュウイスキー、アメリカンウイスキー、カナディアンウイスキーの4種類があり、最近はこちらにジャパニーズウイスキーを加えて5大ウイスキーとすることもあるようです。その中でもスコッチウイスキーは、泥炭を使った独特な香りが特徴で、正露丸のような香りとも言われます。

スコッチはショットグラス・ストレートで飲むのが一番味・香りを楽しめるのですが、飲み終わったグラスに水を数滴垂らすとさらに香りが広がり、香りだけでしばらく楽しむことができます。

このようにすっかりスコッチにハマってしまった私は、2016年に、スコットランドのアイラ島に旅行に行き、蒸留所を回ってきました。

アイラ島は、人口約3000人の小さな島ですが、スコッチウイスキーの中でも有名な「ラフロイグ」「アードベッグ」などの蒸留所がある場所です。私がアイラ島を訪問したときは、ロンドンのヒースロー空港からグラスゴー空港、そこからアイラ島へ飛行機で移動しましたが、スコットランドからフェリーで移動する手段もあるようです。グラスゴー空港とアイラ島は1日1本の往復で飛行機が飛んでいるだけで、天候次第では飛行機が飛ばないこともあるようなので、確実に移動できる可能性の高い手段としてはフェリーの方が良いようです。

アイラ島には、現在9つの蒸留所（ボウモア、ラフロイグ、アードベッグ、ラガブーリン、カリラ、ブルックラディ、ブナハーヴン、キルホーマン、アード

ナッホー）があります。蒸留所の見学ツアーはだいたい1時間くらいでどの蒸留所も最終の受付が



ラフロイグ蒸留所

午後3時くらいです。すべての蒸留所を回るためにはアイラ島で動ける日にちをまる2日確保したほうが良いです。

蒸留所の見学は、各蒸留所のホームページで申込みをすることができますが、蒸留所での試飲もあり、飲む場合はレンタカーを自分で運転して移動はできません。アイラ島にはタクシー会社もないので、ツアーを利用しない場合には、渡航前に蒸留所の見学など移動スケジュールにあわせて現地の個人タクシーをメールや電話等で予約しておくことをおすすめします。また空港にもタクシーがないのでツアーを利用しない場合には渡航前にタクシーの手配をしておくことがおすすめです。

各蒸留所の見学では、試飲のほか、製作工程やウイスキーの味の違いやこだわりを聞けるのが現地ならではの体験です。またウイスキーの他にも現地のただひたすらのどかな風景もおすすめです。

なお、イギリスというと、食べ物に難点のある印象もありますが、アイラ島は海産物がたくさん採れることもあり、何を食べても美味しかったです。とりわけ牡蠣に現地のスコッチウイスキーを垂らして食べるのは現地ならではの食べ方です。

ウイスキーそのものもおすすめですが、現地のどかな風景も非日常な雰囲気を感じられ、おすすめです。